

飯舘村と東京大大学院農学生命科学研究科は5日、村の農畜産業などの復興に関する連携協力協定を結んだ。

東京電力福島第一原発事故後、同研究科の溝口勝教授（農学博士）らが村内の森林や田畑で放射性物質の影響などを研究している。毎年8人程度の学生が村を訪れ、除染後の農地を使った花園作りなどに取り組んできた。協定の締結で教員や学生が村、村民と連携した研究を進め、農畜産業の復興につなげる。

協定締結式は村役場で行われ、菅野典雄村長と丹下健同研究科長が協定書に署名した。菅野村長は「美しい村を復活させる支援をお願いしたい」と期待し、丹下科長は「村と連携を深め、新しい農業の成功事例をつくる」と語った。

村が復興に向けた連携協定を大学・大学院と結ぶのは福島大、大阪大に次いで三例目。

（2018/03/06 08:35 | カテゴリー：主要）



協定書に署名した菅野村長（左から2人目）、丹下科長（中央）ら



協定書を手にする福島県旅館村の菅野典雄村長（左から2人目）と東大大学院の丹下健研究科長（同3人目）＝5日午後、旅館村役場

[ニュース](#)[フルスクリーンで見る](#)[今日のサッと見ギャラリー](#)

旅館村が東大と連携協定 福島、農畜産業復興狙い

[ツイート](#) [反応](#)[おすすめ 17](#)[G+](#)[0](#)

東京電力福島第1原発事故の避難指示が昨年3月末に大部分で解除された福島県旅館村は5日、農畜産業の復興促進を狙い、東大大学院の農学生命科学研究科と連携協定を結んだ。

村役場で開かれた締結式で菅野典雄村長は「若い学生が村の中を歩き回れば復興にプラスになる。美しい村にしていくサポートをしてほしい」と期待。丹下健研究科長は「復興は短期間で終わるものではない。農畜産業の復興を継続して支援したい」と話した。

村では昨年、和牛の繁殖が再開されたばかり。販売用のコメも事故後初めて、収穫した。詳細な支援内容は固まっておらず、まずは研究科の学生が村を訪れ、避難先から戻った農畜産家から現状や課題を聞き取りする予定だ。村は宿泊施設の提供などのサポートを検討する。

研究科の教授が原発事故後、村内で研究授業をしたり、放射線量の測定に携わったりしたことが縁で協定締結に至った。